

難波西鶴と



【68】

と呼ぶことを認めていたことが分かります。

森田 雅也

来は、現在の中国・四国・九州地方を指していました。

対馬には天領がありませんでした。

前回までは西鶴作品に出が、江戸時代は九州のみを指すようになっていまして、もろろん、「西国」という語の使用例が必ずしも九州に限らないものもありました。

江戸時代、幕府の直轄領す。「西国なまり」「西国

難波を中心として、海のは天領と呼ばれました。そ船「西国者」などです。道を引きいたとき、北海道松の天領を管轄し、館内の新西鶴の「諸艶大鑑(好色前同様に、意外と九州は隣松・収税・庶務をつかさど二代男)」「貞享元(1684)年刊」でも、「西国」人でした。もっとも海の道った役職を「郡代」としま84)年刊)でも、「西国」を使えば、大坂から江戸へしたが、豊前(福岡県東部衆か)という間に「いか行くのと所用時間が変わら及び大分県北部)・豊後(大にも備後福山(広島県福山ないからですが、九州新幹分県(大部分)・肥前(佐市)ちかき里也」と答えて線が全線開通した今、当時賀県及び巻岐・対馬を除くいる例があります。と同様の思いを実感できま長崎県)・肥後(熊本県)しかし、西鶴は「日本永す。

ただ、西鶴作品では「九 日向(宮崎県及び鹿児島代蔵)貞享5(1688)州」と書かれるより、「西 筑前(福岡県 年刊)などで、「西国米」国」と称される方が多くあ った役職を「西国郡代」と用いています。『日本国語ります。『西国』は「東国」 称したことも、幕府が公 大辞典でも「西国米」を「九州地方から産出する米」と

江戸時代、幕府も「西国」公認

しています。

ところで江戸時代は、何でも「番付表」にしてしまいましたが、本来は相撲の序列や芝居に関する広告のため一枚刷り物でしたが、変わり番付として、長者番付、温泉番付、菊など盆裁関係の番付、酒宴番付、料亭番付、おかず番付など限らないですが、現在でも「ラッキンク」として面白い番付を目にしますね。

中でも「米番付」は好評でした。「播州米」「庄内米」「近江米」などが上位にきますが、味を競うこの番付では、残念ながら「西国米」は、よつやく10位内に入る程度でした。

ところが「西国米」は、新米としてこの米よりも早く難波・大坂に入港してくる米でした。そのためか、物語も多く残っています。次回に続きます。

(関西学院大学文学部文学言語学教授)

意外な隣人は「九州」